

臨床研究倫理審査委員会（治験） 議事要旨

【1部】

開催日時	令和5年3月29日（水）18:24～19:01
開催場所	茨城県立中央病院 研修棟 A
出席委員名	小島寛、清嶋護之、鈴木保之、小林弘明、狩野俊幸、荒木眞裕、菅谷明德、増田淳之、鈴木美加、山下ゆうか、角智美、多川英久雄、村上りつ子
課題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>新規試験 MSD 株式会社の依頼による</p> <p>議題① 「透析中の末期腎不全の日本人高年齢被験者を対象に MK-2060 の安全性、忍容性、薬物動態及び薬力学の評価を目的とした単回投与試験」 治験の実施の適否について審議した。</p> <p>審議結果： 承認</p> <p>継続試験 ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社の依頼による</p> <p>議題② 「Elotuzumab の前試験に参加した被験者に対する継続投与試験」 海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。</p> <p>審議結果： 承認</p> <p>議題③ グラクソ・スミスクライン社の依頼による 「慢性副鼻腔炎患者を対象とした GSK3511294 の第 III 相試験」 海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。また治験に関する変更について審議した。</p> <p>審議結果： 承認</p> <p>議題④ 日本イーライリリー株式会社の依頼による 「クローン病患者を対象とした LY3074828 の第 III 相試験」 海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。</p> <p>審議結果： 承認</p> <p>議題⑤ 日本イーライリリー株式会社の依頼による 「クローン病患者を対象とした LY3074828 の第 III 相試験－②」 海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。</p>

審議結果： 承認

議題⑥

MSD 株式会社の依頼による

「胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした MK-3475 の第 III 相試験」

国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認

議題⑦

MSD 株式会社の依頼による

「胃癌を対象とした MK-3475 の第 III 相試験」

国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。また治験に関する変更について審議した。

審議結果： 承認

議題⑧

MSD 株式会社の依頼による

「胃癌（HER2 陰性）を対象とした MK-3475 の第 III 相試験」

国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認

議題⑨

MSD 株式会社の依頼による

「胃癌患者を対象とした MK-3475 と MK-7902 (E7080) の第 III 相試験」

国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認

議題⑩

MSD 株式会社の依頼による

「食道癌患者を対象とした MK-3475（ペムブロリズマブ）と MK-7902（E7080：レンバチニブ）の第 III 相試験」

国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認

議題⑪	ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社の依頼による 「治療歴のある転移性結腸・直腸癌患者を対象とした BMS-986213 の非盲検、ランダム化、第 III 相試験」 海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。
審議結果：	承認
議題⑫	バイエル薬品株式会社の依頼による 「脳卒中リスクのある 18 歳以上の心房細動の患者を対象に、脳卒中又は全身性塞栓症の発症抑制に関する、経口 FXIa 阻害薬 asundexian (BAY2433334) の有効性及び安全性をアピキサバンと比較する多施設共同、無作為化、実薬対照、二重盲検、ダブルダミー、二群間並行群間比較、第 III 相国際共同試験」 海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性および治験に関する変更について審議した。また、安全性年次報告について報告した。
審議結果：	承認
議題⑬	日本化薬株式会社の依頼による 「切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌に対する NK012 の第 II 相臨床試験」 開発の中止等について報告した。